

日数廿八日ばかり天気相つき惣中大ニ心配仕候

神主 塩月上野

この史料は、先に塩月伝大夫に関する調べをする際に

## 一枚のメモ

米水津の高宮さんが、「古文書」に関する原稿を寄せられているのを見て、ふと、昔の事を思い出しました。

あれは、佐伯市制施行三十周年の記念の年でした。その記念事業の一つとして、「佐伯市史」の編さんが取り上げられ、私もその編集委員の一人に選ばられました。

担当は現代編。古い昔のことを担当された方にくらぶれば、楽な方で、早速資料の収集に県立図書館へ通ったり、市の書類倉庫へ入ったりしました。

だが、意外とこれといった資料がなく、ずい分苦労しました。そんなとき、戦前、年末になると、それぞれの担当課長が、一年間の統計や出来事をまとめて提出していた書類を見つけました。残念な事に、それは二、三年分しかありませんでしたが、ずい分と役に立ちました。

用いた「諸神神記録」の表紙裏に走り書きされていたものである。神社にかけた当時の人々の熱い思いが私たちの胸へ伝わってくるような気がしてならない。

また、あるときは、議事録にはさまれていた一枚の走り書きに助けられたこともありました。

そのとき、私は（これを書いた人は、深い気持で書いたのではないだろうが、時が経ってみると、こんなに役に立つ。そのときはこんなものと思っても、書き残しておく事は大事なんだ。一枚のメモでもばかにしてはいけない）としみじみ思いました。

実は、私も大学で専門科目の単位の一つに古文書学を取りましたが、それは、別に古文書に興味があったわけではなく、いわば、単位を揃えるために取ったものですが、このときばかりは古文書とはこんな大切なものかと、続けて勉強しなかつたのが悔まれてなりませんでした。

（後藤 知久記）